

# 令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ①豊かな心をはぐむ教育の推進

<b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b>	<b>2 友達への思いやり</b>	<b>3 道徳・心の教育の充実</b>
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

【学校から】○本校では、教育活動全体を通した心の教育の推進を重点目標に掲げ、「徳育」の充実に努めてきた。評価指標として、学校評価の「1.一人一人の児童生徒の尊重」および「3.道徳・心の教育の充実」における保護者の評価の3と4の合計の割合を、それぞれ90%以上に設定した。学校評価では、「1.一人一人の児童生徒の尊重」における3と4の合計の割合は、生徒では81%、保護者では87%と、昨年度とほぼ横ばいの状態であり、目標が達成できなかった。○「3.道徳・心の教育の充実」における保護者の評価の3と4の合計の割合についても、89%とわずかながら達成できなかった。次年度も、心の教育の更なる充実を目指したい。

## ②確かな学力を育む教育の推進

<b>4 意欲的な学習態度</b>	<b>5 授業力向上</b>	<b>6 ICT活用</b>
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

【学校から】○「知育」面では、基礎学力の向上と自ら学ぶ生徒の育成を目指した授業づくりを重点目標に掲げて推進してきた。評価指標として学校評価の「5.授業力向上」と「6. ICT活用」における生徒・保護者の評価の3と4の合計の割合を、それぞれ85%以上に設定した。その結果、「5.授業力向上」における評価の3と4の合計の割合は、生徒では81%と達成できなかったが、保護者では86%と達成できた。また、「6. ICT活用」における評価の3と4の合計の割合は、生徒で91%、保護者で87%と評価指標を大きく上回った。ICT活用については、さらなるタブレットの有効活用を図り、学力向上につなげていきたい。

## ③健やかな体を育む教育の推進

<b>7 健康づくり</b>
子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

【学校から】○4と3の評価の割合が、生徒では8%、保護者では4%、教職員では11%昨年度より上昇している。コロナ禍の中で一人一人が食事や運動、睡眠に気をつけた生活ができていると考えられる。

## ①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<b>8 児童生徒理解</b>
先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。

【学校から】○「8.児童生徒理解」における3と4の合計の割合が、教職員（100%）と生徒（80%）の間での認識の差が大きい。保護者（88%）との認識の差は昨年度よりは小さくなっている。今後も生徒を「認め・ほめ・励まし、伸ばす」指導の充実を図っていく。○「9.いじめや問題への対応」についても、教職員と生徒・保護者との認識の差が大きい。教職員は、保護者・生徒には見えない対応や支援を行っている面もあると考えられるが、いじめや問題に対しては、どの生徒もわが子と思って親身になった対応を継続していきたい。○「10.学校の支援体制」では、保護者の3と4の合計の割合が90%の高評価を得たが、一人一人の教育的ニーズを踏まえた対応を更に心がけていきたい。

## ②特別支援教育の推進

<b>9 いじめや問題への対応</b>	<b>10 学校の支援体制</b>
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

【学校から】○「9.いじめや問題への対応」についても、教職員と生徒・保護者との認識の差が大きい。教職員は、保護者・生徒には見えない対応や支援を行っている面もあると考えられるが、いじめや問題に対しては、どの生徒もわが子と思って親身になった対応を継続していきたい。○「10.学校の支援体制」では、保護者の3と4の合計の割合が90%の高評価を得たが、一人一人の教育的ニーズを踏まえた対応を更に心がけていきたい。

### ①子どもたちの身近な安全対策の充実

### ②最適な学習環境の整備

#### 11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

Category	Yes (Blue)	No (Red)	Other (Green)
保護者	~25%	~75%	0%
生徒	~75%	~25%	0%
教職員	~60%	~40%	0%

【学校から】○事故防止に向け、安全・安心を第一に考えた細やかな交通指導や安全指導の成果が学校評価で高い評価として表れていると考えられる。今後も地域の関係機関との連携を図りながら安全・安心な生活が送れるように指導を継続したい。

#### 12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

Category	Yes (Blue)	No (Red)	Other (Green)
保護者	~25%	~75%	0%
生徒	~55%	~45%	0%
教職員	~55%	~45%	0%

【学校から】○昨年度と本年度にトイレ改修や外壁塗装、特別教室のエアコン設置等を行い、施設・設備の環境も整備されてきている。日常の安全点検を細やかに継続しながら安全管理にも努めていきたい。

### ③家庭・地域社会との連携強化

#### 13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。

Category	Yes (Blue)	No (Red)	Other (Green)
保護者	~25%	~75%	0%
生徒	~55%	~45%	0%
教職員	~25%	~75%	0%

#### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

Category	Yes (Blue)	No (Red)	Other (Green)
保護者	~25%	~75%	0%
教職員	~40%	~60%	0%

【学校から】○「13. 教育方針・目標の理解」では、保護者・生徒・教職員ともに、評価が数%低下した。本年度は、新型コロナウイルス感染症による年度初めの2ヶ月間の休校やその後の制限もあり、PTA総会や授業参観、家庭訪問、様々な学校行事等、保護者に対して教育方針や目標を説明したり、家庭や地域と連携して教育活動を展開する機会が減った影響もあると考えられる。様々な機会を活用して教育方針や目標の共有を図ったり、家庭や地域と連携した教育活動を工夫しながら連携強化を図っていく必要がある。

### ④本校の教育

#### 15 主体的判断力

学校は、多様な意見を参考にしながらも、生徒自身で物事を決定するように指導していますか。

Category	Yes (Blue)	No (Red)	Other (Green)
保護者	~25%	~75%	0%
生徒	~55%	~45%	0%
教職員	~25%	~75%	0%

#### 16 自己表現力

学校は、生徒が自分の思いや考えを、周りの人に伝えることができるように指導していますか。

Category	Yes (Blue)	No (Red)	Other (Green)
保護者	~25%	~75%	0%
生徒	~55%	~45%	0%
教職員	~40%	~60%	0%

#### 17 共感的理解

学校は、生徒同士が互いの良さを認めることができるような指導をしていますか。

Category	Yes (Blue)	No (Red)	Other (Green)
保護者	~25%	~75%	0%
生徒	~55%	~45%	0%
教職員	~40%	~60%	0%

【学校から】○本校は、教育目標として「真の自立と共生」を掲げ、全職員で協働しながら教育目標の実現を目指して教育活動を工夫してきた。「15. 主体的判断力」「16. 自己表現力」「17共感的理解」については、昨年度も伸びが見られたが、本年度はさらに向上した。一昨年度と比較すると、「15. 主体的判断力」では9%、「16. 自己表現力」では9%、「17共感的理解」では6%向上している。しかし、自己表現力については自分の思いを十分に伝えることのできない生徒が12%おり、授業や行事等での言語活動の充実や短学活での1分間スピーチ等の工夫が必要である。

## 来年度の具体的な取り組みについて

### ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

心のアンケート等の各種アンケート調査、教育相談、スクールライフ（生活ノート）等の活用を図るとともに、保護者との連携を深め、一人一人の生徒の状況に応じた対応を行って行く。また、その対応においては、スピード感をもって迅速に対応し、問題の長期化や悪化を防ぐ。

### ②確かな学力をはぐくむ教育の推進

授業力向上については、「授業づくり5つの視点」をふまえた授業展開を図り、わかる授業、楽しい授業づくりに努める。また、本年度導入されたタブレットを活用し、生徒が意欲をもって主体的に取り組むことのできる授業づくりに努める。さらに、市学カテストの分析結果と個別の学習シート、学びノート等を活用し、基礎基本の定着を図る。

### ③健やかな体を育む教育の推進

コロナ禍における運動量を確保するための体育授業等の工夫を図る。学校と家庭が連携し、SNSの使用ルールの徹底を図る。

### ④いじめ不登校などに対する相談支援体制・特別支援教育の推進

いじめ対策委員会、主任会、生徒指導部会、特別支援教育部会の充実と「報告・連絡・相談・確認」の徹底により、課題に対して組織的かつ迅速に対応する体制を強化する。また、SCやSSW等の専門家との連携を図る。

### ⑤子どもたちの身近な安全対策の充実

朝夕の交通指導や校内での安全指導を充実させる。また、PTAや地域（交通安全協会・地域ネットワーク会議等）との連携を通して地域で見守る体制の強化を図る。

### ⑥最適な学習環境整備

一昨年度からの大規模改修により校舎内外の教育環境が改善されてきた。今後は、定期的な安全点検、迅速な補修による環境整備を充実させる。

### ⑦家庭地域社会との連携強化

様々な機会に本校の教育方針や目標等を家庭や地域に発信し、連携協働体制を確立する。また、校区青少協や地域安全協会等との連携を推進する。

### ⑧本校の教育

日々の授業や特別活動を活用し、話し合いや発表の場を意図的に計画し、実践を繰り返すことにより判断力・表現力・共感的理解力およびコミュニケーション能力を高めていく。

## 学校関係者評価

令和3年2月に実施した学校関係者評価委員会における評価（意見）

生徒・保護者・教職員の自己評価を見ると、生徒同士、生徒と教職員、保護者と教職員のつながりが例年より希薄化している面があるのではないかと感じた。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための全国的な臨時休校が3ヶ月に及んだ影響が大きかったと思う。特に年度末や、年度初めの臨時休業は、学校にとっては「まとめ」や「導入」の時期であり、教育活動の展開が難しかったのではないかと感じた。生徒は、生徒同士や教職員等との触れ合いや、学校行事等を通して大きく育つことが多いので、本年度は学校の大切さ・重要性を改めて感じた。

臨時休業中もICTを活用した教育活動が展開されていた。また1月からは、ICT（タブレット）が一人1台導入された。ICTを活用して、授業展開を工夫することで今後の学力向上につながることを期待したい。